

日本臨床発達心理士会千葉支部 2025 年度第 1 回資格更新研修会・総会のお知らせ

日時 2025 年 6 月 1 日(日) 13 時 00 分～16 時 20 分 (12 時 30 分受付開始)

会場 千葉大学西千葉キャンパス 教育学部 1 号館 1 階大会議室。対面形式で実施。

千葉市稲毛区弥生町 1-33 JR 西千葉駅または京成みどり台駅より徒歩。

(車の乗り入れはできません)

千葉支部会員向け研修会、研修ポイント 1 ポイント(申請予定)。

研修会終了後、2025 年度千葉支部総会を実施いたします。

テーマ 体験を通して気づく「アンコンシャス・バイアス」

講師 内海崎 貴子 先生 (白百合女子大学)

白百合女子大学教授(副学長)。専門は教育学で、特に人権教育とジェンダー平等教育を中心に研究と教育活動を行っている。2000 年ごろから、「差別体験授業」というワークショップ型の教育方法を開発し、現在も大学の授業や教員研修、自治体職員研修などで実践している。授業実践は、ドキュメンタリー「支配される教室 ある体験授業の記録」(NHK・BS1 2023 年 11 月 28 日)として放映され、ATP 賞ドキュメンタリー部門奨励賞を受賞した。

要旨

本研修会では、「差別体験授業」を通して、参加者が自身のアンコンシャス・バイアスに気づくことをめざします。「アンコンシャス・バイアス (無意識の思い込み)」とは、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます(内閣府男女共同参画局 <https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/movie.html>)。

私たちは、職場や学校、地域社会の中でさまざまなアンコンシャス・バイアスにさらされています。また、アンコンシャス・バイアスが自身の仕事や社会生活に影響していることも少なくありません。今回は、講師が開発した「差別体験授業」というワークショップを通して、自身のアンコンシャス・バイアスに気づき、それらを修正するにはどうしたらよいか、一緒に考えていきましょう。

○参加方法等

◆千葉支部会員向け研修会(千葉支部準会員も参加可)。他支部からの参加はできません。

定員なしですが、事前参加申込が必要です。

申込受付期間 4 月 13 日より 5 月 11 日まで。千葉支部メールアドレスに氏名、会員番号(8 術)を明記してメールで申し込んでください。 jacdpcchiba@yahoo.co.jp

◆研修会後すぐに総会を行います。★参加されない方は、総会委任状の返信をお願いいたします。

「委任状 総会に参加しませんので議決権を議長に委任します。会員番号(8 術) 氏名」

受付期間 4 月 13 日より 5 月 31 日まで。

◆当日の講義の中の「差別体験授業」について、参加者を授業の参加者と授業の観察者に分けて進めさせていただきますのでご承知ください。

◆研修会資料は当日配布します。総会資料は事前に千葉支部 HP に掲載し当日にも配布します。

◆参加費(500 円)は、研修会当日受付でお支払いください。

◆(注意)2025 年度の会費が未納の方は参加できません。まだの方は会費を納入してから研修会の申込をしてください。

千葉支部 2025 年度 第 1 回資格更新研修会 報告

2025 年 6 月 1 日(日)13 時~16 時 30 分

対面による研修会 参加者 49 名

体験を通して気づく「アンコンシャス・バイアス」

【講師】 内海崎貴子先生（白百合女子大学 副学長・ライフリテラシー教育センター）

今回の研修会はこれまでの研修会と趣向が異なり、体験型の研修会を実施しました。これまでの研修会は、講師からお話をいただく講義形式であり部分的に体験が入るといった構成がほとんどでしたが、今回は、研修の参加者をランダムに「差別体験授業参加者」と「差別体験授業参観者」に分けて行い、研修会を受講した全ての参加者がそれぞれの立場で体験をし、その体験を基にグループディスカッションを行い「気づき」を顕在化する形式で行われました。本研修の主軸となった差別体験授業とは、講師である内海崎貴子先生が開発されたワークショップ型の教育方法です。このワークショップを通して、研修参加者に自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」つまり、アンコンシャス・バイアス（無意識の差別）に気づくことが目的の研修です。差別体験授業では、講師の先生がこれまでのリサーチから作り上げた「最も嫌な教師役」となり、偶然的に振り分けられた参加者（小学校 4 年生役）に対して、社会的文化的性別（Gender）に基づいた発言をし、徐々に教師が期待する属性となるように参加者をコントロールしていきました。中々役になり切れず恥ずかしさから笑顔になる参加者、不快な表情になる参加者、不必要に反発する参加者もいましたが、徐々にあきらめの表情に変化し、『先生はどう答えたら喜ぶのか』、『先生が不機嫌にならない答えは？』等…自分の意見ではなく「先生」の意に沿うように行動を変容させていったことが印象的でした。授業後の参加者と参観者を交えたグループディスカッションでは、授業が進むにつれて反抗しても無駄と思った、先生の意見に従った方が楽だと感じた、否定される悲しさや押し付けられる不条理さを感じたが、自分ではどうしようもないから従った、見ていて苦しくなった、自身の生活を振り返って自分の価値観を当たり前と思う怖さを感じた等の多くの意見が出ていました。

講師の先生からは、ひとりの人間として相手の人権を尊重する人権感覚を日頃から磨くことや、褒める行為も言葉を選ばないと差別になる、優遇されていると差別に気づかない、区別が差別になる等、たくさんの気づきとなる言葉をいただきました。また、今回これまで経験していなかった体験だったので不快に感じたと思うが、これが幼児期から「日常」の中で経験していると不快にすら感じられない等、子どもの人格形成に影響を及ぼす怖さもあるとのお話をいただきました。

今回の研修を通して、対人援助職に携わる臨床発達心理士である私たち一人一人が、アンコンシャス・バイアスに気づき、意識し、修正していく努力を、常に考え続けて行くことが大切であると、思いを新たに出来ました。

(報告 藤川志つ子)